



2025 年 12 月 19 日

AI ショッピングからステーブルコインの進展まで:

2026 年を変革する決済に関する主な予測

*2025 年 12 月 15 日に米国にて発表された、Visa、グループプレジデント、オリバー・ジェンキンによる 2026 年の予測 (<https://corporate.visa.com/en/sites/visa-perspectives/trends-insights/2026-predictions.html>) の抄訳です。

2025 年は決済の変革期。2026 年にはそれを凌ぐ変化が。

驚異的なソフトウェア、世界中に普及するモバイル端末、オンデマンドのコンピュートパワー、ほぼ無限のデータ、生成 AI、量子コンピューティング、ブロックチェーンなど、こうした技術面の飛躍は、社会全体だけでなく、私たちのお金との関わり方に大きな変化をもたらしています。その中でも、決済サービス業界は、他の業界以上に新たな技術を積極的に取り入れ、世界中でイノベーションを推進しています。

こうした変革を踏まえ、私たちはこれからの時代に大きな期待を寄せています。ここでは、2026 年における決済分野を形作る主な予測をご紹介します。

1. エージェンティックコマースが主流となる

対面式コマースから、e コマース、モバイルコマースを経て、今や、消費者や企業の代わりにエージェントが取引を行うエージェンティックコマースへと移行しています。そして 2026 年には、AI のサポートによるショッピングが一層現実的なものとなり、エージェンティックコマースは自然に広がっていくでしょう。

ChatGPT アプリを開くと、新たに「購入を代行」というボタンが表示されることを想像してください。そのボタンをクリックして、エージェントをプログラムすると、次の 3 つの処理が行われます。

- 決済の有効化:**よく使用するクレジットカードを読み込みます。カードが認証されると、トークン化され、セキュリティで保護されます。これでエージェントがお客様に代わって安全に買い物ができます。
- 個人の嗜好にあわせたカスタマイズ:**安全なデータトークンを通じて、買い物履歴や好みに関する情報を共有します。これで、エージェントは「オリバーさんなら、これらの購入オプションのうち、どれを選ぶだろう?」と考えながら、代わりに買い物をすることができます。
- 支出の管理:**条件を設定して、エージェントに買い物をさせることができます。例えば、旅行や食事の場合は許可して医療機関の受診については許可しない、といった設定が可能です。また支払い金額が 100 ドル未満の場合は許可し、それ以上の場合は許可しないこともできます。

これにより、エージェントが自分専属のパーソナルショッパーになってくれるので、お気に入りの e コマースサイトを閲覧するだけでなく、自分の嗜好を理解した上で、自分らしい意思決定ができる LLM(大規模言語モデル)になるわけです。

大手ブランドが AI を利用したショッピング体験の主流化に注力する中、次のステップである、完全なエージェンティックコマースへの移行は 2026 年にさらに加速するでしょう。そこで Visa は、こうした進化の実現を目指して、エコシステムパートナーと協力して、重要なインフラとツールを提供しています。これは未来の話のように思われるかもしれません、それほど先のことではありません。今日起こっているイノベーションは、明日には当たり前のものとなるのです。

2. アイデンティティをめぐる戦いは AI 時代に突入

AI コマースには大いに期待していますが、懸念もあります。それは、犯罪者も同様のイノベーションを悪用できるということです。彼らは AI を活用したディープフェイクやエージェント詐欺、合成 ID を用いて、「アイデンティティ」を狙っています。

これまでの詐欺は、トランザクションレベルで発生していました。攻撃者が一度に盗めるトランザクションは 1 つだけでした。それが AI 技術の進歩に伴い、今では攻撃者はより高度な手口で、非常に精巧な詐欺やなりすましを使って消費者のアイデンティティ全体を盗むことができます。一度アイデンティティが盗まれると、その情報によるすべてのトランザクションは攻撃者のものとなります。これは大規模な詐欺であり、その被害は甚大なものとなる可能性があります。

残念ながら 2026 年には、このような AI を利用したアイデンティティ攻撃はさらに高度化し、発生件数が大幅に増加することが予測されます。こうした事態の悪化は、アイデンティティをめぐる新たな AI の戦いの幕開けとなり、より多くの投資、注力、パートナーシップが必要になります。この戦いは、銀行、加盟店、フィンテック企業、政府が単独で取り組んでも勝利を収めることはできません。2026 年には決済サービス業界は、協力してアイデンティティ詐欺と戦い、共にリスクを管理するための共通の機能や技術を開発することが求められます。そして Visa は、この戦いにおいて中心的な役割を担います。

3. ステーブルコインの躍進

法定通貨によって担保された暗号通貨であるステーブルコインは、これまで投機的な資産と見なされていたものを、信頼できるグローバル決済インフラへと変革しています。ステーブルコインが既存の国際決済エコシステムに加わり、その役割を補完していく可能性は、特に新興市場やクロスボーダー決済において非常に大きいでしょう。米国の GENIUS 法や世界各国で同様の法律が成立し、規制の枠組みが整備されたことで、2026 年には飛躍的な成長が期待できます。

次の分野でステーブルコインの大幅な成長が見込まれます。

- 現地通貨が不安定であり、安定した米ドルの利用が限られている新興市場で、ステーブルコインが価値の保存手段として機能(アルゼンチンなど)
- B2B 決済、B2C 決済、P2P 送金などのクロスボーダー決済において、ステーブルコイン技術を活用することで現在のソリューションをより効率化
- Visa のインフラを活用し、法定通貨と暗号通貨の世界をシームレスに移動できる。Visa カードと連携した暗号通貨ウォレットには無制限の決済範囲が与えられているので、消費者はステーブルコインと暗号資産を担保にスター・バックスでコーヒーを購入できる(Visa は現在、40 か国以上の国と地域で、130 を超えるステーブルコインと連携したカードプログラムを提供)

- Visa ネットワークでの決済。ステーブルコインネイティブのお客様も、他の通貨と同じように、米ドルやユーロのステーブルコインで Visa ネットワーク上の決済ができ、今後もその規模は拡大する

2026 年において一つ確かなことは、ステーブルコインの潜在的な活用法は、最も議論されるテーマの一つになるだろうということです。というのも、ステーブルコイン市場は、2030 年までに最大 4 兆ドルに達する可能性があると言われているからです。私の見解ではやや強気すぎるようになりますが、2026 年が本格的な飛躍の年になるというのは間違いないでしょう。

4. 消えゆく手動入力によるゲストチェックアウト

財布からクレジットカードを取り出し、16 枠のカード番号、配送先住所、カードの有効期限、そしてカードに記載されているセキュリティコードを入力した経験を覚えているでしょうか。そんな時代は、いよいよ過去の遺物になろうとしています。スマートフォンの登場で、電話番号を覚える必要がなくなり、検索エンジンを使えば URL を覚える必要がなくなったのと同じように、カード情報をより簡単な方法で記憶できるようになります。いくつもの手順を踏まなければならない面倒なゲストチェックアウトは、ワンクリック決済に代わりつつあります。Apple Pay のようなデジタルウォレットでも、Shopify のような e コマースプラットフォームでも、購入ボタンがオンラインに組み込まれるようになりました。これにより、決済が速くなり、カゴ落ち率が低下し、不正利用も減少します。2026 年には、手動入力のゲストチェックアウトは、モdemと同様に過去のものとなるでしょう。

実際、手動入力のゲストチェックアウトを利用した Visa の e コマース取引件数は、2019 年の約半数から 2025 年にはわずか 16% にまで減少しました。Visa の e コマース販売店上位 25 社を見ると、既に 1 枠台前半になっています。

多くの市場では、手動入力によるゲストチェックアウトは間もなく完全に姿を消すでしょう。このような変化を実現している要因の 1 つが、160 億もの Visa トーケンです。

5. 現金の時代に終わりが訪れるのか

いいえ。2026 年でも、近い将来でも、そのようなことはありません。マーク・トウェインに、「私が死んだと、大げさに言いふらされている」という名言がありますが、現金についても同じことが言えます。世界中には大量の紙幣(約 11 兆米ドル)が流通しているため、今すぐになくなることはないでしょう。そのため、これから何年にもわたって、多くの国でデジタル決済のイノベーションと成長が促進されるでしょう。

しかし、世界における現金の利用は変化しつつあります。2026 年は、世界の消費者決済の半分がカード情報を使って行われる、史上初の年となるでしょう。ここまで來るのに時間はかかりましたが、大きな節目となります。

こうした変化を促しているのは、カードやモバイル端末によるタッチ決済などのイノベーションです。これまで現金が唯一の選択肢であった少額取引も、こうしたイノベーションによりデジタル化が可能となりました。1 ドルのバス料金の支払いにスマートフォンをタッチしたり、農家の直売所で 2 ドルのコーヒーの支払いにカードをタッチしたりするようになって、現金に残された最後の安全地帯が失われようとしています。

現金のデジタル化をさらに進めるため、Visa は WeChat Pay(中国)、M-Pesa(ケニア)、Mercado Pago(ラテンアメリカ)など、世界中のフィンテック企業やデジタルアプリと提携しています。Visa は各地域のイノベーションと、Visa が持つ最高水準のセキュリティや、不正行為、リスク、紛争解決、ブランド、信頼、アクセプタ

ンス、他にはない規模のグローバルネットワークを組み合わせることで、デジタルコマースの安全かつ包括的な成長を実現しています。

「現金は王様だ」という声もありますが、その玉座は奪われつつあります。

6. 未来を予測するには正しい視点で見る必要がある

200 以上の市場で事業を展開する Visa は、世界の決済市場がどれほど多様で、断片的で、ダイナミックであるかを示す、他に類を見ないグローバルな視点を持っています。一見すると、その状況は完全に無秩序で圧倒的に見えるかもしれません。しかし正しい視点で見れば、ノイズの中から兆候を見つけることができます。

Visa では、「市場のアーキタイプ」という視点により、成長モデルが類似した国々をグループ化しています。発展段階、インフラ、消費者行動、イノベーション、規制に基づいて、類似した決済市場のグループを分類しています。この視点で見ると、地球の反対側にいる市場がしばしば双子のように見えます。同じ大陸ではないかもしれないし、同じ言語を話さないかもしれません、多くの点で、同じ決済行動、リスク、機会を共有しています。そしてまさにこのアーキタイプの視点によって、明確なトレンドが浮き彫りになります。

例えば、オーストラリアとインドはいずれもアジア太平洋地域にありますが、決済に関しては共通点がほとんどありません。オーストラリアはデジタル化が進み、現金利用が少ないという点で、北欧、英国、カナダに似ています。逆にインドは、決済の面ではブラジルやナイジェリアと類似点が多く、いずれも、国家レベルのリアルタイム決済ネットワークに大きく依存しています。このレンズを通して見ると、意外かもしれません、日本、ドイツ、サウジアラビア、メキシコはお互いに、地理的に隣接する国々よりも共通点が多いこともわかつてきます。なぜならこれらの国々は、デジタル決済が成長する可能性が高い、成熟した大国だからです。

この視点で分析すると、トレンドが明確になり、より正確な予測を立てることができます。2026 年には、このアプローチによって新たなインサイトが得られ、お客様にとっての新たなつながりが実現するとともに、世界中でイノベーションと成長が促進するでしょう。

###

これらのトレンドや予測は氷山の一角に過ぎません。これからは、B2B での資金移動における画期的なデジタル化、デジタルウォレットの革新的な進化、モバイル端末を通じてデジタル決済を受け入れる何百万もの新たなマイクロマーチャント、富裕層向けの魅力的な新しい価値提案、世界各国での新しいデジタル決済手段がさらに広がるのを目にするでしょう。

決済におけるイノベーションが至る所で開花するのに従い、2026 年も、非常にダイナミックで重要な一年になるでしょう。

【Visaについて】

Visaは電子決済の世界的リーダーとして、世界200以上の国と地域における決済取引によって消費者、事業者、金融機関や政府機関をつないでいます。Visaのミッションは、最も革新的かつ利便性や信頼性が高く安全な決済ネットワークで世界を結び、個人や企業、そして経済の繁栄に貢献することです。私たちは、世界中のすべての人にとっての包括的な経済こそが、世界中の人々の生活を向上させ、経済へのアクセスが決済の未来へつながると信じています。詳しくは、Visa.com(英語サイト)またはwww.visa.co.jp(日本語サイト)をご覧ください。